第４章　現状と課題

第１節　保存の現状と課題

（１）史跡宇佐神宮境内（宇佐神宮地区）

種別	現状
建造物	●国宝本殿３棟や南中楼門、西大門、若宮神社、高倉、下宮といった建造物や呉橋と西参道、正参道、御霊水までの参道といった道、御田植祭時の御田所等の位置は絵図（室町時代～江戸時代、昭和大造営以前）に描かれた配置と一致する ・史跡を構成する主な建造物や参道の位置は少なくとも中世以降大きく変化していない＝史跡の本質的価値を示す要素の一つ ・昭和の大造営（昭和７～16年）で新築、移設、改修等が行われた建造物（南大門、西大門脇門・同透塀、参集殿・勅使斎館ほか）も多くあるが、景観に配慮された建造物が多い ＝本質的価値に準じた諸要素
	●建造物の老朽化が進んでおり、国庫・県費・市費補助を受けて、又は宇佐神宮の単独経費等で建造物の修復を随時行っている ・県指定有形文化財（南中楼門、西大門、八幡鳥居、高倉、呉橋）も老朽化しているものが多いが、規模が大きいため予算面から修復工事が難航している建造物もある（※八幡鳥居は平成29年度修復工事実施） ・白蟻の侵入や雨漏り等により、木部が破損している建造物（西大門、高倉、下宮他）がある（※高倉は平成29年度に白蟻除去済み） ・社叢樹木からの落枝や落葉、小動物等による檜皮が抜けている箇所や、経年劣化で檜皮が薄くなっている建物等が多い ・上宮土間回廊周辺で地盤沈下が生じており、建造物への影響が懸念される
	●国宝本殿を中心とした消防設備の定期点検、消防訓練等を実施している
地下遺構	●西参道より南側では弥勒寺跡の伽藍部分（金堂跡、講堂跡、塔跡など）が比較的良好な状態で遺存することが、発掘調査で確認され、保存されている ●菱形池西側では、近世以前の池内法華三昧堂跡（大弐堂跡）が発掘調査で確認されている。菱形池周辺には、五重塔といった建物跡が残存している可能性が高い ●神宮境内地区において新規の構造物（柵、トイレ、建物の増築等）がある場合、事前の発掘調査等を条件に現状変更等を認めている
	●宮迫地区は集落景観そのものが歴史的内容を伝えるため、現状の集落が存続することが重要である。そのため、重要遺構を破壊しない範囲での住環境の整備や現状変更については、事前の発掘調査等を条件に現状変更を認めている

課題
●史跡の構成要素（本質的価値を構成する諸要素、本質的価値に準じた要素、保存・活用に資する諸要素、調整等が必要な要素など）を明確化する必要がある
●史跡内建造物（国宝本殿含む）を健全な状態に保つために、修復工事の優先順位や方法、時期等の検討が必要 ・屋根（檜皮）、躯体、基礎といった建造物自体の破損状況または健全度が不明であり、調査が必要 （前回は平成 14 年に破損状況調査を実施） ・平面図のみしかない建物が多く、修理の設計等に余分な時間を要する ・史跡内の社殿の大部分は檜皮葺屋根であり、檜皮の葺き替えを含む定期的な修復が不可欠である ・檜皮葺屋根の修復は金銭的にも、工期的にも（年間で使用できる檜皮量が限られるため）長大化しがち （※近代の造営で新築、移設等が行われた社殿も同様） ・近代の大造営で新築、改修等が行われた檜皮葺屋根の建造物を今後も維持するかどうかの検討が必要 （※下宮授与所は平成 25 年度、南大門は令和２年度に檜皮葺から銅板葺に変更。いずれも宇佐神宮の単独経費で実施） ・史跡内にある宇佐神宮球場について、将来的には撤去等の検討も必要
●消防設備の老朽化が進んでおり、機器の更新等の検討も必要
●弥勒寺跡の伽藍部分と菱形池西側以外では発掘調査が行われていない、又は、小規模な発掘のみで遺構の有無が未確認 ・西参道北側は、現在、宇佐神宮庁等の建物が建てられているが、常行堂跡といった弥勒寺に関係する建造物跡が残されている可能性が高く、建替え等の際には発掘調査が必要である ・上宮周辺にかつてあった経蔵や護摩堂等は昭和の大造営で撤去されているが、地下に遺構が残っている可能性がある
・地下遺構が所在する恐れのある場所で開発等がある場合、保存すべきかどうかの基準（時代、構造、性格等）やその方法（埋土保存、記録保存）が曖昧である

種別	現状
石垣、参道等	●近代以前に築かれた石垣や、護岸等の老朽化が進んでいる ・菱形池周辺や祓所周辺の護岸で、漏水や石の抜け、緩み等がある ・宮迫地区の石垣に一部崩落、又は緩み、孕みが生じている箇所がある (平成5年台風6号、平成28年熊本地震後の豪雨等で一部崩落)
自然的要素	●宇佐神宮社叢は良好に保存されている一方で、落枝や落葉による建造物や参道等への被害がある
その他の諸要素	●室町時代以降の境内を描いた絵図、神宮の造営に関する古文書、建造物修理時の棟札等の各種記録資料が多数あり、大部分は宇佐神宮宝物館で保存されている (絵図、古文書等の多くは国・県・市指定文化財) ●宮迫地区に空家が数件あり、将来的な景観悪化等が懸念される
史跡周辺の要素	●宇佐神宮と関連の深い神社、寺院、その他の文化財等が宇佐神宮地区周辺のみでなく市内一円に点在している ・宇佐宮八箇社、百体神社、和間神社等の摂社はいずれも文化財としては未指定 ・史跡周辺に宇佐神宮に関連の深い寺院(大楽寺、大善寺、極楽寺など)が多く、弥勒寺や御許山にあった仏像が残っており、仏像は国または市指定文化財として保存されている ・勅使街道跡、放生会道、行幸会道、峰入りの道(一部がおもと古道)等の、宇佐神宮の祭事に関連する道路の大部分は位置が変わらないまま残されている (※近代化に伴う拡張や舗装等は行われており、道路遺構自体は不明なものが多い)
研究	●宇佐神宮の歴史や祭事、八幡信仰等に関しては膨大な研究史がある ●宇佐神宮の所蔵する古文書等については、『宇佐神宮史』(全16巻)や『大分県史料』『八幡宇佐宮御託宣集』等に翻刻されている

課題
●石垣や護岸等についての調査が必要である ・菱形池周辺の護岸等について、修理方針等は定められていない ・宮迫地区の石垣について、３次元計測等の詳細な記録作成が必要である
●史跡宇佐神宮境内と天然記念物宇佐神宮社叢の関係性の整理が必要である ●天然記念物指定地外で、樹木や竹の繁茂により建造物や景観、地下遺構等に影響が出ている箇所がある （宮司職舎付近、弥勒寺跡周辺、正参道石段付近、寄藻川護岸周辺など）
●宮迫地区の空家対策等について、関係機関等からの情報収集や対策の検討が必要である
●史跡周辺も含めた保存活用の計画が必要である

上宮・下宮・宇佐神宮社叢(国天記)　全景(南西から、宇佐神宮提供)

上宮　全景(南から、宇佐神宮提供)

主な構成物件の現状（宇佐神宮境内地区　小椋山ゾーン１）

1　本殿一之御殿（国宝）・申殿（宇佐神宮提供）

2　上宮　南中楼門（県有文）

3　上宮　南回廊西側

4　上宮　東回廊・大楠・祈祷殿

5　上宮　北辰神社（県有文、右）、春日神社（左）

6　上宮　住吉神社

7　上宮　西中門

写真撮影位置（S=1/2,500）

主な構成物件の現状（宇佐神宮境内地区　小椋山ゾーン２）

8　上宮石段（百段）

9　上宮南側　透塀（百段左右）

10　南大門

11　百段下のモノレール

12　西大門（県有文）、脇門

13　上宮　神井

14　八幡鳥居（県有文）

写真撮影位置 (S=1/2,500)

主な構成物件の現状（宇佐神宮境内地区　小椋山ゾーン３）

15　若宮神社　拝殿

16　若宮神社　拝殿・本殿

17　石灯篭群（八幡鳥居西側）

18　亀山神社

19　上宮への石段・社叢（国天記）　下から

20　上宮への石段・社叢　上から

21　下宮への石段　下から

写真撮影位置 (S=1/2,500)

主な構成物件の現状（宇佐神宮境内地区　小椋山ゾーン４）

22　下宮　拝殿

23　下宮　本殿

24　下宮　神門・透塀

25　高倉（県有文）

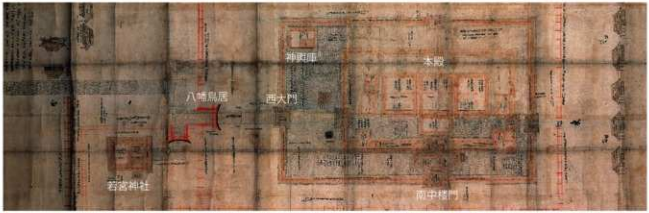
26　鳥居・社叢

27　下宮方向への鳥居

28　上宮方向への鳥居

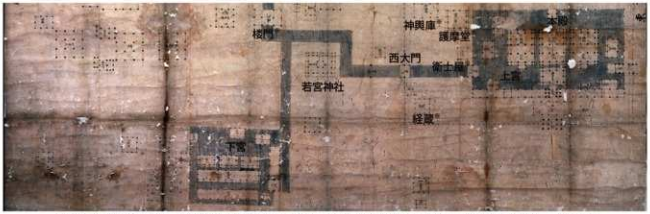
写真撮影位置（S=1/2,500）

絵図等による記載（宇佐神宮境内地区　小椋山ゾーン１、※は未確認の建物）



文治年間（1185~1190）　宇佐宮上宮仮殿地判指図　上宮・下宮付近（国重文、宇佐神宮所蔵、上が北）

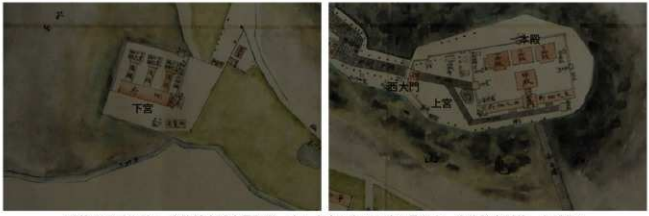
応永 24(1417) 年頃か　宇佐宮絵図　上宮・下宮付近（国重文、宇佐神宮所蔵、上が北）



応永 24(1417) 年頃か　宇佐宮並弥勒寺造営指図　上宮・下宮付近（国重文、宇佐神宮所蔵、上が北）

寛永 5(1628) 年　宇佐宮絵図　右：上宮・左：下宮（永青文庫所蔵、上が北）

絵図等による記載（宇佐神宮境内地区　小椋山ゾーン２、※は未確認の建物）



明治 28(1895) 年　宇佐神宮境内見取図　右：上宮・左：下宮（県有文、宇佐神宮所蔵、上が北）

昭和初期頃　宇佐神宮境内地図　上宮・下宮付近（県有文、宇佐神宮所蔵、上が北）

昭和造営前の南中楼門・回廊

昭和造営前の西大門

昭和造営前の西中門・本殿（官幣大社宇佐神宮写真帖）

昭和造営前の若宮神社（官幣大社宇佐神宮写真帖）

主な構成物件の現状（宇佐神宮境内地区　弥勒寺ゾーン２）

32　粟島神社　祠

33　琴平神社

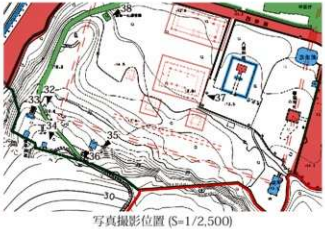
34　天満神社　祠

35　稲荷神社

36　願掛地蔵

37　弥勒寺跡を紹介する説明版（奥が金堂跡）

38　一柱騰宮　顕彰碑



写真撮影位置 (S=1/2,500)

主な構成物件の現状（宇佐神宮境内地区　弥勒寺ゾーン３）

39　八坂神社　鳥居・透塀

40　八坂神社　本殿

41　西参道（東から）

42　西参道　弥勒寺東大門の礎石

43　祓所

44　春宮神社

45　放生池

写真撮影位置（S=1/2,500）

主な構成物件の現状（宇佐神宮境内地区　弥勒寺ゾーン４）

46　儀式殿・総合案内所

47　宇佐神宮庁

48　勅使斎館

49　参集殿

50　初沢池

51　宝物館

52　宝物館北側トイレ（右の位置図外）

写真撮影位置 (S=1/3,000)

53　絵馬殿・池内法華三昧堂跡

54　菱形池　能舞台

55　菱形池　橋

56　菱形池　御霊水までの参道と亀山神社方面の石段

57　菱形池　水分神社への石橋

58　水分神社

59　御霊水　鳥居

写真撮影位置 (S=1/3,000)

主な構成物件の現状（宇佐神宮境内地区　菱形池・頓宮ゾーン２）

60　頓宮　鳥居

61　頓宮　拝殿

62　頓宮　神輿庫

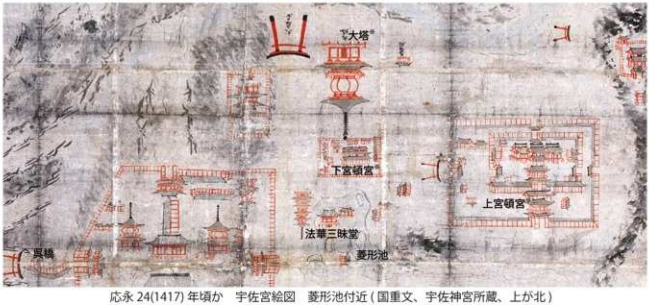
63　大尾参道

64　大鳥居・正参道

65　黒男神社

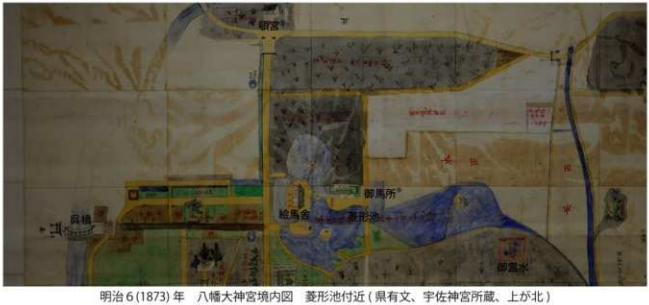
写真撮影位置 (S=1/3,000)

絵図等による記載（宇佐神宮境内地区　菱形池・頓宮ゾーン１、※は未確認の建物）



応永 24(1417) 年頃か　宇佐宮絵図　菱形池付近（国重文、宇佐神宮所蔵、上が北）

18 世紀第 3 四半期頃　宇佐宮境内図　菱形池付近（県有文、宇佐神宮所蔵、上が北）



明治 6 (1873) 年　八幡大神宮境内図　菱形池付近（県有文、宇佐神宮所蔵、上が北）

主な構成物件の現状（宇佐神宮境内地区　弥勒寺ゾーン１）

弥勒寺ゾーン　全景（北から、宇佐神宮提供）

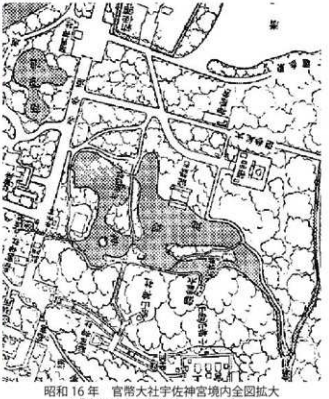
29　弥勒寺金堂跡　東から

30　弥勒寺講堂跡　西から

31　弥勒寺講堂跡　礎石

写真撮影位置（S=1/2,500）

昭和初期　宇佐神宮境内地図拡大
（県有文、宇佐神宮所蔵、上が北）



昭和 16 年　官幣大社宇佐神宮境内全図拡大
（『宇佐神宮昭和御造営』、上が北）

昭和造営前の菱形池１（官幣大社宇佐神宮写真帖）

昭和造営前の菱形池２（官幣大社宇佐神宮絵葉書）

昭和造営前の菱形池３（『ふるさと写真集』）

主な構成物件の現状（宇佐神宮境内地区　宮司職舎・球場ゾーン）

宮司職舎・球場ゾーン（北から、宇佐神宮提供）

66　宮司職舎表門・東参道

67　宮司職舎　表門

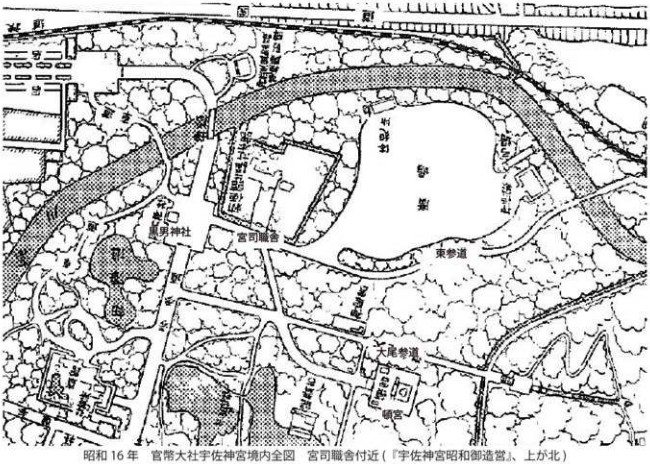
68　宮司職舎　堀

69　神宮球場　駐車場ゲート

写真撮影位置 (S=1/3,000)

絵図等による記載（宇佐神宮境内地区　宮司職舎・球場ゾーン、※は未確認の建物）

19 世紀中頃　宇佐宮境内図　宮司職舎付近（県有文、宇佐神宮所蔵、上が北）



昭和 16 年　官幣大社宇佐神宮境内全図　宮司職舎付近（『宇佐神宮昭和御造営』、上が北）

大尾山ゾーン　全景（南から）

70　大尾山　参道

71　大尾山　和気公の碑（東郷平八郎揮毫）

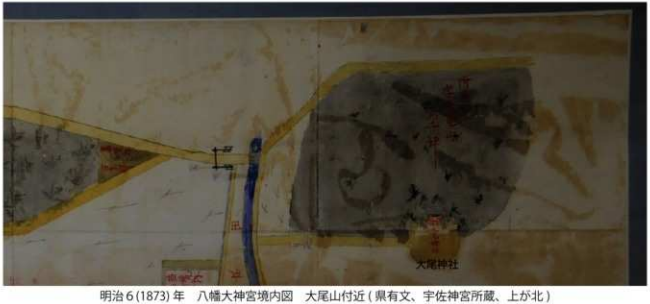
72　護皇神社　鳥居

73　大尾神社　鳥居

74　大尾神社　中門・透塀

写真撮影位置 (S=1/3,000)

18 世紀第 3 四半期頃　宇佐宮境内図　大尾山付近（県有文、宇佐神宮所蔵、左が北）



明治 6（1873）年　八幡大神宮境内図　大尾山付近（県有文、宇佐神宮所蔵、上が北）

昭和造営前の大尾山（官幣大社宇佐神宮写真帖）

75　呉橋（県有文、北から）

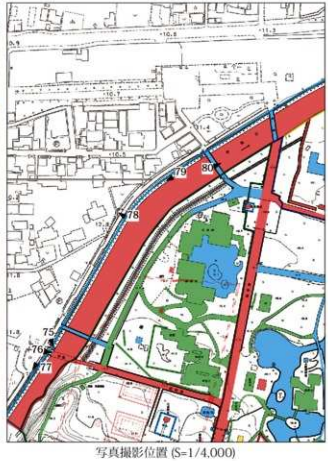
76　呉橋（県有文、西から）

77　呉橋南側の道路（史跡外）

78　寄藻川沿いに整備された小山田記念公園（史跡外）

79　寄藻川沿いに設置されたベンチ（史跡外）

80　太鼓橋（正参道北側）



写真撮影位置 (S=1/4,000)

昭和初期頃　宇佐神宮境内地図　（宇佐神宮所蔵、上が北）

昭和 22(1947) 年　米軍撮影の航空写真　宇佐神宮周辺拡大（上が北）

主な構成物件の現状（宮迫地区１）

宮迫地区　全景（北から）

宮迫地区　全景（南から）

81　宮迫地区　東谷道路（北から）

82　宮迫地区　中谷道路（北から）

83　宮迫地区　西谷道路（北から）

84　旧栄興寺心乗坊跡　北側石垣（北から）

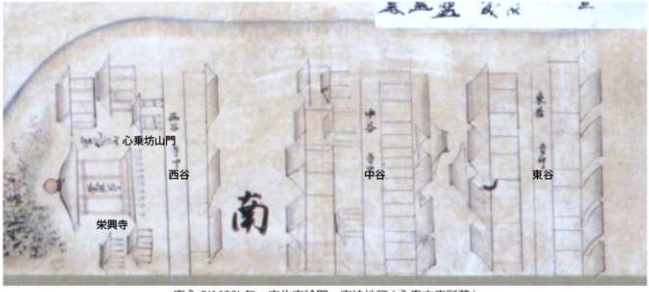
85　旧栄興寺心乗坊跡　石垣（北東から）

86　旧栄興寺心乗坊跡　山門（修復前）

87　宮迫地区公民館

写真撮影位置（S=1/4,000）

絵図等による記載（宮迫地区）



寛永 5(1628) 年　宇佐宮絵図　宮迫地区（永青文庫所蔵）

17 世紀中頃　宇佐宮絵図宮迫地区（到津家所蔵）

昭和 22(1947) 年　米軍撮影の航空写真　宮迫地区（上が北）

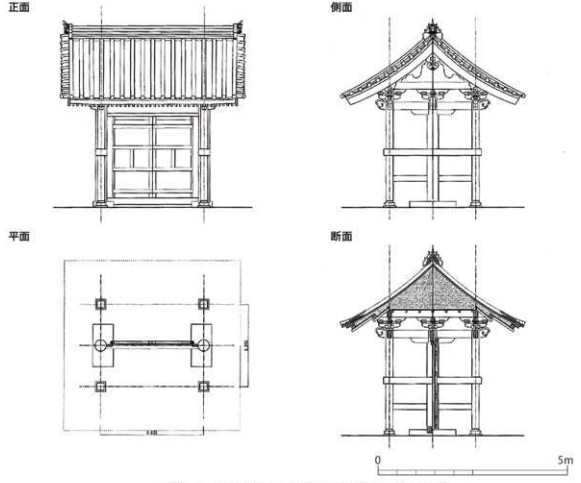
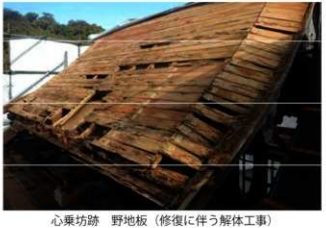


図 4-1-1　旧栄興寺心棄坊跡　山門実測図（S=1/100）

心棄坊跡　扁額　春慶塗による彩色が一部に残る

心棄坊跡　面戸瓦の周囲に残る屋根漆喰の痕跡



心棄坊跡　野地板（修復に伴う解体工事）

心棄坊跡　白蟻の食害を受けた木材

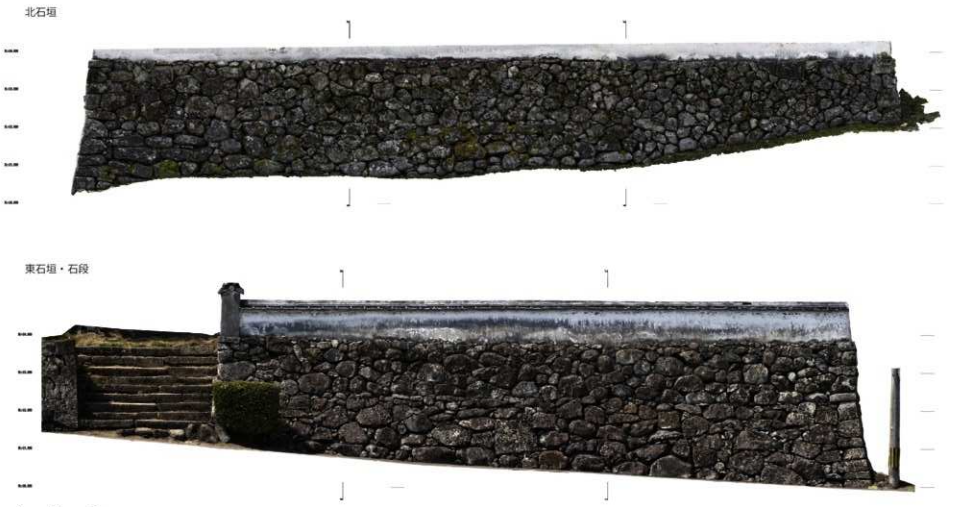


図 4-1-2　旧栄興寺心乗坊跡　石垣オルソ画像（上：北側石垣、下：東側石垣・石段、S=1/100）

（2）史跡宇佐神宮境内（御許山地区）

種別	現状
建造物	●史跡指定地内の建造物は大元神社拝殿、同社務所、同旧社務所、大元八坂神社、トイレ２基のみ ・旧社務所は現在は使用されていない
地下遺構	●六坊跡の発掘調査等は行われていないが、各僧坊には石垣の他にも基壇縁石や礎石、池跡、石切場跡等が比較的良好な状態で遺存している ●各種石造物の風化、コケの発生等が生じている
石垣、参道等	●大元神社参道、石段等は平成５年に災害復旧 ・平成３(1991)年の台風19号で参道石畳や石段に大規模な被害が出た （被災後、全面的に復旧工事を実施）
自然的要素	●山頂付近にあるアカガシ林は、平成３年の台風19号で被災。アカガシの風倒木からひこばえが発生している。植生はある程度回復している（平成28年時点）
研究	●御許山六坊の配置は、絵図などから推定されている
史跡周辺の要素	●御許山正参道は「歴史の道百選」に選定されている

主な構成物件の現状（御許山地区）

1　宇佐神宮上宮から見た御許山

2　御許山正参道（御許古道）　石段の一部崩壊

3　社務所付近の石段　緩みあり

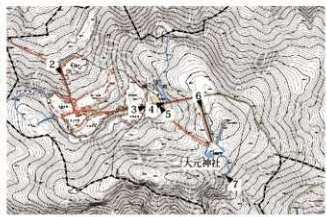
4　御許山正参道　石段

課題
●旧社務所は現在使用されておらず、老朽化による景観の悪化が懸念される
●六坊跡周辺を中心とした詳細調査が必要である ・六坊跡の基壇範囲、礎石の配置、池跡や水路、石切場、遺物分布範囲等の実測、時期推定等 ・石造物の記録作成 (位置図、実測、拓本等)
●石段や石畳は全体的には良好だが、一部に石段下に隙間が生じている箇所もある
●御許山のアカガシ林については、定期的な植生の確認等が必要である
●文献や絵図と実際の地形を対照し、位置の推定等が必要である

5　現在使用されていない旧社務所

6　御許山　正参道　石畳

7　大元神社東側の御霊水



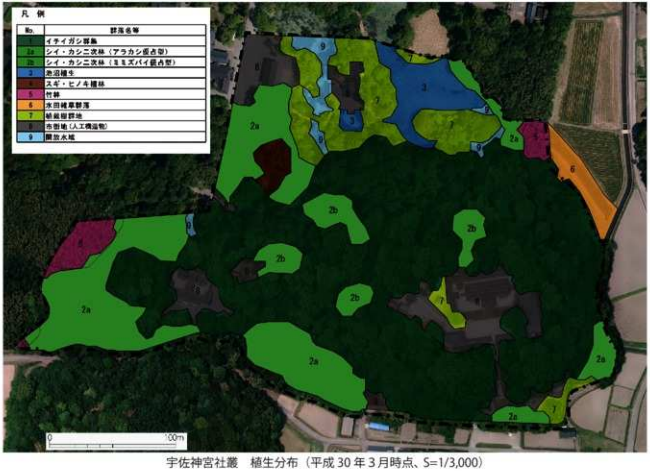
御許山地区　写真撮影位置（S=1/7,500 ）

（3）天然記念物宇佐神宮社叢

種別	現状
天然記念物の本質的価値を構成する諸要素	●台風や豪雨により、社叢樹木が転倒または枝折れすることが多い ・平成3年の台風19号、同15年の台風10号により樹木の転倒や枝折れ等、大きな被害が出た （※被災後は土壌を破壊しないように手作業で玉切り、搬出、復旧等を実施した） ・平成5年に「天然記念物　宇佐神宮社叢の保存管理についての指針」を策定 ・近年の集中豪雨や台風等により、大径木の枝折等が発生している （平成30年10月、令和2年12月、どちらも若宮神社付近など） ・建造物や参道に支障とならない倒木は、基本的には倒れたままにしている （搬出が困難であるため。場合によっては現地で玉切りのみ実施）
	●平成28～29年度に実施した緊急調査で、植生調査・植物相調査・大径木調査・神社建造物周辺の樹木調査・参道沿いの樹木調査・土壌断面調査・毎木調査を実施 （平成30年に調査報告書刊行） ・調査の結果、樹高25mを超えるイチイガシ大径木が多数存在し、良好なイチイガシ群集が維持されている一方で、上記の台風等による倒木が発生した箇所では、樹高10m程の亜高木（シイ・カシ二次林）が形成されていることを確認
本質的価値以外の要素	●社叢の主な構成要素ではない植物（外来種、在来種だが注意が必要な植物など） ・社叢北側や西側で竹の繁茂が確認されている ・被災した箇所を中心として、葛やシュロ等の植物が確認されている ・平成29～31年度で、放生池、菱形池の浚渫工事を実施（国庫、県費、市費補助あり）。合わせて、菱形池周辺の工事支障木等を除去した結果、池周辺の景観が改善された
天然記念物周辺の要素	●天然記念物の周囲はすべて史跡宇佐神宮境内の範囲内であり、史跡自体が天然記念物を守るための緩衝地帯として機能している
研究	●宇佐神宮社叢の植生等については、植生の専門家による研究が行われている

課題
●史跡宇佐神宮境内と天然記念物宇佐神宮社叢の関係性の整理が必要である ・天然記念物指定地（宇佐市大字南宇佐 2859 番地）には菱形池の大部分も含まれており、社叢の構成要素でない要素（菱形池、湖沼植物、ほか）も多く含んでいるため、ゾーニングによる保存・活用・整備等を検討する必要がある ・建造物や参道周辺の大径木、危険木等について、枝折れや倒木等の対策が必要である
●竹や葛等の繁殖力が強い植物が確認されており、社叢内で範囲が拡大する前に除去等の検討が必要である
●宇佐神宮社叢を専門とする研究者が少なく、後継者の育成が必要である

宇佐神宮社叢　全景（平成 28 年撮影　オルソ画像、S=1/3,000）



宇佐神宮社叢　植生分布（平成 30 年 3 月時点、S=1/3,000）

主な構成物件の現状（宇佐神宮社叢２）

宇佐神宮社叢　全景（南から）

宇佐神宮社叢　全景（東から）

主な構成物件の現状（宇佐神宮社叢２）

1　正参道から見た社叢

2　亀山神社付近　伐採後に玉切した樹木

3　八幡鳥居周辺の樹木

4　強風と豪雨で参道へ落下した枝 (H30 年)

5　上宮　モノレール乗り場への通路　一部に葛が繁殖

6　上宮東側　上宮回廊の屋根にかかる樹木

7　社叢指定地の南限（御炊川）

写真撮影位置 (S=1/7,500)

主な構成物件の現状（宇佐神宮社叢３）

8　南参道周辺（西から）

9　南参道周辺（東から）

10　下宮南側の樹木

11　下宮北側の樹木（左の大径木はイチイガシ）

12　菱形池方向に傾いた樹木

13　御霊水付近のクスと保護用のウッドデッキ（R2 年設置）

14　社叢北東側に繁茂する竹

写真撮影位置 (S=1/7,500)

第２節　活用の現状と課題

（１）史跡宇佐神宮境内

種別	現状
情報発信	●宇佐神宮地区 ・宇佐市観光情報（市ホームページ）、宇佐市観光協会ホームページ、宇佐神宮ホームページ等の各種 WEB 上で情報発信を行っている ・市が刊行した各種パンフレットや民間事業者の発行するガイドブック等には、宇佐神宮（国宝本殿等）は多く掲載されるが、史跡及び天然記念物であることの情報発信はあまり行われていない ●御許山地区 ・宇佐市観光協会が中心となり、「おもと古道」として登山ルートを示したマップが作られている
教育・普及	●史跡、建造物等についての見学、体験等 ・宇佐市教育委員会主導では、小中学校等と連携した宇佐神宮の文化財や歴史についての講座等は行われていない （個別に依頼があった場合、職員を派遣するがほとんどは単発である） ・平成 22 年度以降、宇佐神宮の社殿（国宝本殿含む）の修復工事の際は、公募等により修復現場特別公開を実施しており、好評である
	●関連文化財の展示、解説等 ・宇佐神宮宝物館では孔雀文箭（国宝）や宇佐宮絵図（重文）等が展示されており、宇佐神宮の所蔵する資料を通して宇佐神宮の歴史をより深く学ぶことができる ・大分県立歴史博物館では常設展で宇佐神宮の境内や弥勒寺に関連した展示が行われている
研究	●放生会道等の宇佐神宮を基点とする古道を含めた学際的研究が、近年別府大学を中心に実施されている。

活用の現状

御神幸祭（夏越祭）での流鏑馬神事（令和元年から実施）

国民文化祭　光の祭典（平成 30 年）

課題
●宇佐神宮地区の内、社殿等がある場所の情報発信は十分行われているが、史跡としての本質的価値の紹介や史跡の詳細な範囲、宮迫地区や御許山の歴史や文化財としての説明については情報発信が不十分である
・小中学校や地域の要望に対応した講座メニューの開発、講師の養成等が必要である ・宇佐神宮の歴史や文化財等について中学生程度でも理解できるような解説書等が必要
・宝物館の解説等は専門的な内容が多く、小中学生等では理解が難しい部分もある

大分県立歴史博物館にある上宮本殿のジオラマ

おもと古道　トレッキングマップ（宇佐市観光協会制作）

（2）天然記念物宇佐神宮社叢

種別	現状
情報発信	●宇佐神宮社叢に関する情報発信等は特に行われていない
教育・普及	●宇佐神宮社叢を対象とした出前講座等は特に行われていない
地域振興、観光等	●宇佐神宮社叢を対象とした地域振興、観光に結び付ける取り組みは行われていない
研究	●民間研究者の研究等が主体である

課題
●宇佐神宮社叢の価値を正しく伝えるための方策を検討する必要がある
●小中学校や地域の要望に対応した講座メニューの開発、講師の養成等が必要である ●学習のために、立ち入りできる範囲等の検討が必要 ●神社と森等の具体的にわかりやすい手引きなどの学習材料の開発が必要
●オオサンショウウオ等の他の天然記念物や自然的な要素と合わせて、情報発信や教育普及、地域振興等に結び付ける手段や方法を検討する必要がある

第３節　整備の現状と課題

（１）史跡宇佐神宮境内

種別	現状
史跡指定地内の整備（修理、修復、美装化、環境整備等）	●保存のための整備 ・国宝本殿、史跡内建造物（春日神社、住吉神社、亀山神社、下宮神門等）の修復工事や菱形池・放生池等の浚渫工事を国庫・県費・市費補助金を受けて実施 ・各種社殿の小修理や美装化は宇佐神宮の単独経費で実施している
	●活用のための整備 ・上宮や下宮、菱形池南側参道（御霊水まで）等のバリアフリー化、南大門下のモノレール設置、説明板の設置といった整備は宇佐神宮の単独経費で実施している ・御許山地区の六坊跡などでは仮設の説明板が宇佐市観光協会等によって設置されている
指定地周辺の整備	●宇佐神宮地区周辺の整備 ・宇佐神宮周辺街なみ整備事業として、勅使街道や横町通りの電線地中化、道路美装化等の工事を宇佐市が実施した（平成 26 ～令和２年度）
	●御許山地区周辺の整備 ・周辺住民やまちづくり協議会（宇佐地区、北馬城地区、西馬城地区）等が中心となって御許山正参道（おもと古道）の草刈、整備等を実施している ・御許山登山口（正覚寺口）周辺はトイレがないため、地元住民がトイレを貸すこともあったが、令和３年度に、御許山登山口（正覚寺口）付近にバイオトイレが設置された ・別の登山口から登った登山客が、正覚寺側から降りてしまうこともあるため、登山道を表示した看板等が必要

整備の現状

保存のための整備（平成 23 年、上宮春日神社）

保存のための整備（平成 30 年、菱形池浚渫）

課題
●史跡内の建造物（社殿等）の老朽化が進んでおり、計画的な修復工事が必要である
●宇佐神宮の祭事のスケジュール（勅祭等）も考慮した美装化や小修理等の整備計画（場所、工法等）の検討が必要である
・おもと古道上の誘導板等は仮設の物で、本格的な整備は実施されていない。史跡内外の説明板の設置等について、位置や内容の検討が必要である

活用のための整備（参道のバリアフリー化、看板設置）

活用のための整備（御許山、登山ルートの標示板）

（2）天然記念物宇佐神宮社叢

種別	現状
天然記念物指定地内の整備	・正参道の石段沿いに宇佐神宮社叢についての説明板が設置されている ・小椋山周辺の社叢内部はほぼ人が立ち入らないため、整備は行われていない ・南参道（南大門付近まで）、菱形池南側参道（御霊水まで）は宇佐神宮の単独事業としてバリアフリー化を実施した ・バリアフリー化と合わせて、菱形池そばの大径木保護のためのウッドデッキ等を設置した
周辺整備	

整備の現状

保存のための整備（平成４年、台風後の復旧作業）

保存のための整備（樹木保護のためのウッドデッキ）

課題
・説明板は文字のみであり、具体的な範囲や樹木の写真等は未掲載

活用のための整備（社叢の説明板）

第４節　体制の現状と課題

（１）史跡宇佐神宮境内

種別	現状
調査・研究	●これまでの調査・研究は宇佐市教育委員会の他、大分県立歴史博物館、大分県教育委員会、大学、宇佐神宮等が実施している
	●建造物 ・平成３年度に「宇佐神宮　史跡指定地内　建造物台帳」を作成した（九州芸術工科大学等に委託） ・史跡内建造物の建築年代、構造、保存管理のランク付け、平面図作成等を実施したが、立面図と断面図は未作成（※修復工事を実施した建造物は、工事設計時に立面図等を作成し、施工時に調査している） ・平成 14 年に実施した破損状況調査は文化財建造物保存技術協会に委託。主に写真で破損状況を記録し、修理優先度等を決定した
	●地下遺構 ・発掘調査は大分県教育委員会、宇佐市教育委員会等がそれぞれ実施した ・弥勒寺跡では発掘調査が行われており、金堂や講堂、寺域の境界といった遺構が判明しているが、それ以外の部分は不明な場所が多い ・弥勒寺跡以外では、面的な発掘調査で遺構が検出されたのは池内法華三昧堂跡のみである
	●石垣、参道等 ・菱形池や祓所等の近代に築かれたと思われる護岸から漏水等が発生しており、原因等の調査が必要である
手続き、維持管理等	●現状変更等 ・宇佐市が管理団体であり、文化財の保存に関する窓口は教育委員会社会教育課文化財係が担っている
	●維持管理等 ・史跡の維持管理（草刈、枝打ち、小修理）等は所有者（宇佐神宮、宮道地区住民等）が個別に実施している
活用、整備等	●文化財の保存活用に係る取り組みは、社会教育課文化財係の他、宇佐市観光・ブランド課や同都市計画課、宇佐市観光協会や宇佐神宮周辺のまちづくり協議会等がそれぞれ個別に行っている
	●宇佐市観光ガイドの会（観光協会所属）では独自に研修会等を開催して宇佐神宮以外にも、市内の文化財や歴史について学習を行っている

（２）天然記念物宇佐神宮社叢

種別	現状
調査・研究	●平成 28 年度の緊急調査は専門委員会の指示のもと、環境アセスメント等の調査業者に現地調査を委託し、調査報告書は宇佐市教育委員会が作成した ・調査後、天然記念物の定期的なモニタリング等は実施できていない
手続き・維持管理等	●所有者の宇佐神宮が維持管理を実施しており、現状変更等は宇佐市教育委員会社会教育課文化財係が窓口となっている
活用、整備等	●宇佐神宮社叢の整備等は特に行われていない

課題
●建造物の調査 ・立面図、断面図の作成、破損状況等の調査が必要である。 ・修復工事を実施した建造物の修理報告書等は刊行されていない
●調査報告書の刊行 ・池内法華三昧堂跡、宇佐神宮の工作物（柵、トイレ等）設置時や宮迫地区個人住宅建替等の確認調査などについて発掘調査成果報告書の作成が必要である
●個別の取り組みに対して、情報を共有できる場がない

課題
●モニタリングの手法や時期、人員体制等を検討する必要がある
●宇佐神宮社叢の価値等を正しく伝えることのできる人材の養成等が必要である